様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ０３６４３

研究課題名（和文）スウェーデンの経済学説を中心とした北欧的社会科学理論の研究

研究課題名（英文）Research on Scandinavian social science theories: Mainly focused on Swedish history of economic thought

研究代表者
藤田　菜々子（Fujita, Nanako）

名古屋市立大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：２０４３８１９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：スウェーデンの経済学史について、17世紀の黎明期から現代に至る通史を明らかにした。また、経済学や経済学者たちが独自性あるスウェーデン社会（スウェーデン・モデル）の形成に強い影響力をもったことを明らかにした。このようなスウェーデンにおける経済学史と社会形成の相互関係について考察をまとめ、単著『社会をつくった経済学者たち――スウェーデン・モデルの構想から展開へ』名古屋大学出版会、2022年を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
スウェーデンがしばしば「高福祉・高負担」社会と特徴づけられるのに対し、日本は「低福祉・低負担」と称されてきた。対照的な社会としてスウェーデンを見ることができるが、その社会形成プロセスについて経済学史研究のアプローチから解き明かすものは、これまでなかった。本研究は、経済と福祉の両立にかかわる政策アイデア、経済学者を含めた公共論議のあり方、ひいては学問と社会の関係性について、スウェーデンの歴史的事例から現代日本に示唆を得るものであることに、学術的意義や社会的意義があるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：I discussed a general history of Swedish economics from the 17th century to the present day. I also clarified the strong influence of economics and economists on the formation of the unique Swedish society (the Swedish model). The interrelationship between the history of economics and social formation in Sweden is discussed in the book "Economists and the Formation of the Swedish Model: An Approach from the History of Economic Thought," published by The University of Nagoya Press in 2022.

研究分野：経済学史

キーワード：スウェーデン　福祉国家　ストックホルム学派

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

スウェーデンをはじめとする北欧諸国は、経済と福祉を両立させてきた、換言すれば、比較的高水準の経済成長と手厚い公的福祉を実現してきたとしばしば評価される。これに対し、日本は戦後高度成長期には北欧諸国を凌ぐほどの高成長を達成したが、公的福祉の充実は後回しの政策課題とされてきたのであり、近年では経済も福祉も低水準にとどまっている。長引く不況と深刻な少子高齢化問題を抱えるようになった現代の日本において、北欧社会はオルタナティブな社会像の一つを示すものとして、少なからず注目されている。

しかし、北欧の社会科学理論、いわば北欧モデルを支えるような経済的・政治的・社会的な思想基盤についての既存研究は少ない。経済学説・経済思想研究から言えば、イギリス、ドイツ、アメリカなどの諸国の研究は比較的盛んだが、北欧の研究を行う者はほとんど見当たらない。また、北欧の地域研究から言えば、近年の具体的事例や制度変化の詳細を紹介する研究が多いが、学説史・思想史研究は不足している。

したがって、本研究課題「スウェーデンの経済学説を中心とした北欧的社会科学理論の研究」は、経済学説・経済思想研究と北欧の地域研究の双方からして、研究の不足を埋めるテーマであるとともに、現代日本に新たな思想的・理論的・政策的示唆を与えうるものとして着想された。

２．研究の目的

本研究は、スウェーデンの経済学説・経済思想に焦点を当て、スウェーデン・モデルを支える経済的・政治的・社会的な思想基盤を明らかにし、より広く北欧モデルを支える社会科学理論を探究することを目的とする。スウェーデン・モデルの形成に焦点を置くので、分析対象とする時代は主に 20 世紀であるが、それ以前からのスウェーデン経済学史の通史を含む。いかにしてスウェーデン経済学界が成立したか、大戦間期という経済的・政治的危機の時代において若手経済学者集団「ストックホルム学派」がいかに形成され、いかなる経済理論を展開し、政策提言を行ったか、またそれがいかに現実の政策制定へと結びついたのかを研究し、高度成長期以降の展開も考察する。スウェーデンをはじめとする北欧の社会科学理論の特性を明らかにすることで、現代日本への示唆を得ることも目的として考えられる。

３．研究の方法

基本的には、申請者が単独で研究を行う。諸文献の収集と内容把握を継続的に行うが、研究期間の後半は、学会発表や論文作成・著書執筆を通じて研究成果を出すことに重点を置く。これまでのミュルダール研究の蓄積があるので、その知識や情報収集技術を基礎として用い、研究を進行する。

４．研究成果

最も大きな成果は、単著『社会をつくった経済学者たち――スウェーデン・モデルの構想から展開へ』名古屋大学出版会、2022 年を刊行したことである。第 11 回名古屋大学水田賞（2022 年度）、第 8 回進化経済学会学会賞（2023 年度）を受賞した。また、7 つの書評に恵まれ（①『週刊新潮』2022 年 12 月 8 日号（評者：田中秀臣）、②読売新聞「2022 年の 3 冊」2022 年 12 月 25 日（評者：牧野邦昭）、③北海道新聞 2023 年 2 月 5 日（評者：根井雅弘）、④『週刊エコノミスト』2023 年 2 月 7 日号（評者：服部茂幸）、⑤『経済セミナー』2023 年 4・5 月号（評者：秋朝礼恵）、⑥『社会思想史研究』第 47 号 2023 年（評者：橋本努）、⑦『経済学史研究』65 巻 2 号 2024 年（評者：寺尾範野））、『週刊ダイヤモンド』2023 年 12 月 23・30 日（新年合併特大号）「2023 年ベスト経済書」23 位に選出されるなど、学術的・社会的反響を得ることができた。

その他を含む、当該科研費研究に関係する研究成果の一覧は次のとおりである。

（1）雑誌論文

・藤田菜々子〈書評〉「グスタフ・カッセル（石原俊時訳）『社会政策』蒼天社出版、2023 年、176 頁」『経済学史研究』65(2),pp.152-154,2024 年 01 月。

・藤田菜々子「「人への投資」を問い直す」『現代思想』 2 月号（青土社）pp.30-39, 2023 年 01 月 [招待有り]。

・藤田菜々子「本当に効果のある少子化対策はスウェーデンに学べ」『文藝春秋オピニオン 2023 年の論点 100』（文春ムック）文藝春秋、pp.60-61, 2022 年 11 月 [招待有り]。

・藤田菜々子〈書評〉「Mats Lundahl, *The Dynamics of Poverty: Circular, Cumulative Causation, Value Judgments, Institutions and Social Engineering in the World of Gunnar Myrdal*, Cham: Palgrave Macmillan, 2021, xi+205 pp.」『経済学史研究』64(1), pp.73-74, 2022 年 07 月。

・藤田菜々子「スウェーデンにおける経済学の生誕――アンデシュ・ベルチとカール・フォン・リンネ」『オイコノミカ』56(1), pp.1-19, 2021 年 12 月。
・藤田菜々子「いま、なぜ北ヨーロッパ研究か？」(共通論題 1) 司会; 横山悦生; 他報告者; 菅沼隆; 藪長千乃; 神野直彦『北ヨーロッパ研究』(特別号:学会設立 15 周年記念大会記録) pp.7-25, 2019 年 02 月 [招待有り]。
・藤田菜々子〈書評〉「Avner Offer and Gabriel Söderberg, *The Nobel Factor: The Prize in Economics, Social Democracy, and the Market Turn*, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2016, xvii＋323 pp.」『経済学史研究』60(1), pp.193-194, 2018 年 07 月。
・Nanako Fujita, Welfare Society and Welfare State in the Japanese-type Discourse on Civil Society, *Evolutionary and Institutional Economics Review,* 16(2), pp.503-521, 2019 年 11 月 [査読有り]。
・Nanako Fujita, Welfare Society and Welfare State in the Japanese-type Discourse on Civil Society, *Evolutionary and Institutional Economics Review*, First Online, pp.1-19, 2019 年 09 月 [査読有り]。
・藤田菜々子「1930 年代スウェーデンにおけるストックホルム学派の群像とケインズ経済学」『北ヨーロッパ研究』15, pp.35-46, 2019 年 07 月 [査読有り]。

(2) 学会発表
・藤田菜々子「スウェーデン社会の展開とスウェーデン経済学史の相互関係」[招待講演]進化経済学会福井大会 学会賞受賞講演（福井県立大学永平寺キャンパス） 2024 年 03 月
・藤田菜々子「討論 田中拓道『福祉国家の基礎理論：グローバル化時代の国家のゆくえ』」[招待講演]グローバル化と公共性研究会 比較福祉国家研究の最前線④ 田中拓道『福祉国家の基礎理論：グローバル化時代の国家のゆくえ』（岩波書店、2023 年）出版記念オンライン合評会、共催：立命館大学人文科学研究所・重点プログラム「グローバル化と地域の多様性（diversity)」、一橋大学社会学研究科・比較福祉国家研究会 2024 年 02 月
・藤田菜々子「スウェーデン福祉国家形成におけるウェルビーイングと財政（シンポジウム「Well-being と財政」)」 [招待講演]日本財政学会第 80 回全国大会 九州大学伊都キャンパス 2023 年 10 月 シンポジウム・ワークショップパネル（指名）
・藤田菜々子「合評『社会をつくった経済学者たち』に寄せて」経済学史学会第 183 回関西部会 同志社大学 2023 年 07 月
・藤田菜々子「スウェーデン・モデルへの経済学史的アプローチ」[通常講演]進化経済学会現代日本の経済制度部会 千葉商科大学丸の内サテライトキャンパス（オンライン併用）2023 年 03 月
・藤田菜々子「福祉国家への信頼はいかに生まれたのか：スウェーデン社会への経済学史的アプローチ」[招待講演]第 28 回社会政治研究会 （オンライン） 2022 年 12 月
・藤田菜々子「山田鋭夫『ウェルビーイングの経済』を読む」進化経済学会現代日本の経済制度部会・ケインズ学会中部部会共催 名古屋大学（オンライン併用） 2022 年 12 月
・藤田菜々子「ケインズとオリーンの交流」[招待講演]ケインズ学会第 12 回全国大会（オンライン） 2022 年 11 月
・藤田菜々子「拙著紹介：スウェーデンの経済学史」[招待講演]現代経済学史研究会 アルカディア市ヶ谷 2022 年 09 月
・藤田菜々子「討論：小峯敦「「新しい資本主義論」の勃興――2020 年代の「脱資本主義論」と比較する」 [通常講演]第 75 回経済思想研究会 （オンライン、主管：山形大学） 2022 年 08 月
・藤田菜々子「ストックホルム学派の群像とケインズ『一般理論』」経済学史学会 関西部会第 179 回例会（オンライン） 2021 年 07 月
・藤田菜々子「新マルサス主義者としてのヴィクセル」科研費基盤研究（B）第 6 回「良き社会」研究会（オンライン） 2021 年 06 月
・藤田菜々子「スウェーデンにおける経済学の生誕――Anders Berch とリンネ」 [通常講演]経済学史学会 関西部会第 178 回例会（オンライン） 2020 年 12 月 口頭発表（一般）
・藤田菜々子「「資本主義の終焉」論と北欧型資本主義の可能性」[招待講演]進化経済学会 現代日本の経済制度部会（オンライン） 2020 年 07 月 口頭発表（招待・特別）
・藤田菜々子「レギュラシオン・アプローチとスウェーデン経済学史研究」 [招待講演]進化経済学会 現代日本の経済制度部会・制度と統治部会 名古屋大学 2020 年 01 月
・藤田菜々子「市民社会と福祉国家・福祉社会」[招待講演]ケインズ学会第 8 回年次大会 一橋大学 2018 年 12 月
・藤田菜々子「市民社会と福祉社会――「日本型」の歴史的・学史的意義」[招待講演]進化経済学会 現代日本の経済制度部会（制度と統治部会共催） 関西大学（梅田キャンパス） 2018 年 11 月
・藤田菜々子「1930 年代スウェーデンにおけるストックホルム学派の群像とケインズ経済学」[招待講演]北ヨーロッパ学会 2018 年度研究大会 東洋大学 2018 年 11 月
・藤田菜々子「『福祉世界』合評へのリプライ」[招待講演]経済学史学会関西部会 大阪工業大学（梅田キャンパス） 2018 年 07 月
・藤田菜々子「福祉国家研究と福祉世界のアイデア」[招待講演]第 27 回東海地区政治思想研究

会 名古屋大学 2018 年 06 月
・藤田菜々子「ミュルダールの経済学説の背景にあるスウェーデン」[招待講演]北ヨーロッパ学会第 15 回記念大会（共通論題） 早稲田大学 2017 年 12 月

（3）図書
・藤田菜々子『社会をつくった経済学者たち――スウェーデン・モデルの構想から展開へ』名古屋大学出版会 2022 年 09 月 ISBN: 9784815810979
・磯谷明徳; 植村博恭編著『制度と進化の政治経済学――調整の重層性と多様性』(担当:分担執筆範囲:「資本主義の多様性とレジリエンス――北欧型資本主義の可能性」)日本経済評論社 2022 年 08 月 ISBN: 9784818826137
・山田鋭夫; 植村博恭; 原田裕治; 藤田菜々子『市民社会と民主主義：レギュラシオン・アプローチから』(担当:共著範囲:「市民社会と福祉社会：新しい福祉国家の理念と政策」)藤原書店 2018 年 06 月 ISBN: 9784865781793
・藤田菜々子『福祉世界 - 福祉国家は越えられるか』(中公選書) (担当:単著範囲:)中央公論新社 2017 年 10 月 ISBN: 4121100298 241

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 藤田菜々子	４．巻 65（2）
２．論文標題 〈書評〉グスタフ・カッセル（石原俊時訳）『社会政策』蒼天社出版、2023年、176頁	５．発行年 2024年
３．雑誌名 経済学史研究	６．最初と最後の頁 152-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 藤田菜々子	４．巻 64（1）
２．論文標題 Mats Lundahl, The Dynamics of Poverty: Circular, Cumulative Causation, Value Judgments, Institutions and Social Engineering in the World of Gunnar Myrdal, Cham: Palgrave Macmillan, 2021, xi+205pp.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 経済学史研究	６．最初と最後の頁 73-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 藤田菜々子	４．巻 2023年号
２．論文標題 本当に効果のある少子化対策はスウェーデンに学べ	５．発行年 2022年
３．雑誌名 文藝春秋オピニオン　2023年の論点100	６．最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤田菜々子	４．巻 2月号
２．論文標題 「人への投資」を問い直す	５．発行年 2023年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田菜々子	4．巻 56
2．論文標題 スウェーデンにおける経済学の生誕――アンデシュ・ベルチとカール・フォン・リンネ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 オイコノミカ	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nanako Fujita	4．巻 16
2．論文標題 Welfare Society and Welfare State in the Japanese-type Discourse on Civil Society	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6．最初と最後の頁 503-521
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s40844-019-00135-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田菜々子	4．巻 15
2．論文標題 1930年代スウェーデンにおけるストックホルム学派の群像とケインズ経済学	5．発行年 2019年
3．雑誌名 北ヨーロッパ研究	6．最初と最後の頁 35－46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田菜々子	4．巻 60(1)
2．論文標題 書評：Avner Offer and Gabriel Soderberg, The Nobel Factor：The Prize in Economics, Social Democracy, and the Market Turn, Princeton University Press, 2016, xvii+323pp.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 経済学史研究	6．最初と最後の頁 193-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 藤田菜々子	４．巻 特別号（北ヨーロッパ学会第15回記念大会記録）
２．論文標題 いま、なぜ北ヨーロッパ研究か？（共通論題1）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 北ヨーロッパ研究	６．最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　7件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 スウェーデン社会の展開とスウェーデン経済学史の相互関係
３．学会等名 進化経済学会福井大会 学会賞受賞講演（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 討論 田中拓道『福祉国家の基礎理論：グローバル化時代の国家のゆくえ』
３．学会等名 グローバル化と公共性研究会（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 スウェーデン福祉国家形成におけるウェルビーイングと財政（シンポジウム「Well-beingと財政」）
３．学会等名 日本財政学会第80回全国大会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 合評『社会をつくった経済学者たち』に寄せて
３．学会等名 経済学史学会第183回関西部会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 討論：小峯敦「「新しい資本主義」の勃興――2020年代の「脱資本主義論」と比較する」
３．学会等名 第75回経済思想史研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 拙著紹介：スウェーデンの経済学史
３．学会等名 現代経済学史研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 ケインズとオリーンの交流
３．学会等名 ケインズ学会第12回全国大会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 山田鋭夫『ウェルビーイングの経済』を読む
３．学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度部会・ケインズ学会中部部会
４．発表年 2022年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 福祉国家への信頼はいかに生まれたのか：スウェーデン社会への経済学史的アプローチ
３．学会等名 第28回社会政治研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 スウェーデン・モデルへの経済学史的アプローチ
３．学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度部会
４．発表年 2023年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 新マルサス主義者としてのヴィクセル
３．学会等名 第6回「良き社会」研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 ストックホルム学派の群像とケインズ『一般理論』
３．学会等名 経済学史学会関西部会第179回例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 スウェーデンにおける経済学の生誕――Anders Berch とリンネ
３．学会等名 経済学史学会 関西部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 「資本主義の終焉」論と北欧型資本主義の可能性
３．学会等名 進化経済学会 現代日本の経済制度部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 レギュラシオン・アプローチとスウェーデン経済学史研究
３．学会等名 進化経済学会　現代日本の経済制度研究部会・制度と統治部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 福祉国家研究と福祉世界のアイデア
３．学会等名 第27回東海地区政治思想研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 『福祉世界』合評へのリプライ
３．学会等名 経済学史学会関西部会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 1930年代スウェーデンにおけるストックホルム学派の群像とケインズ経済学
３．学会等名 北ヨーロッパ学会2018年度研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 市民社会と福祉社会――「日本型」の歴史的・学史的意味
３．学会等名 進化経済学会「現代日本の経済制度」部会（「制度と統治」部会共催）
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 市民社会と福祉国家・福祉社会
３．学会等名 ケインズ学会第8回年次大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤田菜々子
２．発表標題 ミュルダールの経済学説の背景にあるスウェーデン
３．学会等名 北ヨーロッパ学会第15回記念大会（共通論題）（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計4件

１．著者名 磯谷明徳、植村博恭、山田鋭夫、池田　毅、西　洋、田原慎二、遠山弘徳、宋　磊、藤田菜々子、原田裕治、内橋賢悟、大熊一寛、横田宏樹	４．発行年 2022年
２．出版社 日本経済評論社	５．総ページ数 370
３．書名 制度と進化の政治経済学	

１．著者名 藤田 菜々子	４．発行年 2022年
２．出版社 名古屋大学出版会	５．総ページ数 438
３．書名 社会をつくった経済学者たち	

１．著者名 山田 鋭夫、植村 博恭、原田 裕治、藤田 菜々子	４．発行年 2018年
２．出版社 藤原書店	５．総ページ数 392
３．書名 市民社会と民主主義――レギュラシオン・アプローチから	

１．著者名 藤田菜々子	４．発行年 2017年
２．出版社 中央公論新社	５．総ページ数 241
３．書名 福祉世界――福祉国家は越えられるか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

名古屋市立大学　研究者データベース　（藤田菜々子）

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関